

11/6

Thu

研究校 伊那市立伊那東小学校

共同研究者 佐藤和紀
(信州大学 教育学部 准教授)

深い学びの視点に立った授業改善 ～個別最適な学びと協働的な 学びの一体的な充実とともに～

8月に、事前授業として全校研究会を行いました。研究テーマである「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を深めるため、6名の先生が授業を公開し、共同研究者である佐藤先生からご指導をいただきました。今年度、本校では研究テーマに迫る手だてとして「クラウド活用」を掲げていますが、公開授業を終えた先生方や参観者の先生方からは「Google スプレッドシートが教師の一方的なツールになっていた」

「ICTを何のために使うのかモヤモヤしていた」という率直な声が上がりました。このモヤモヤをもとに、先生方と時間をかけて話し合いました。先生方の中には「子ども一人ひとりを徹底して見ること」の大切さから、単元や内容のまとまりでのゴールの姿をみすえる中で、「この子には〇〇のような支援が必要だ」「あの子は、こんなふうに追究していたのか」等の丁寧なみとりも生まれ始めています。しかしながら、30数名の子どもたち一人ひとりを毎時間みとっていくことには難しさがあることも事実です。そのような時に、「一人ひとりの学びを丁寧なみとるために、クラウドやICTを使いたい」という欲求が生まれてくるのだと考えます。今回の授業を通して、少しずつ学校全体で同じ方向を向くことができたと感じています。今後、私たちはこの学びを活かし、先生方同士が、その都度、「これでいいのか?」というモヤモヤを話し合えるようにしていきます。そして、子どもたち一人ひとりをよく見て、その子に合った支援を考えることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりに取り組んでいきます。



共同研究者 佐藤先生から

「個別最適な学び」と「協働的な学び」が前提の授業をデザインするための鍵は、子ども一人ひとりを徹底的にみとることです。ツールや手法から入るのではなく、子どもたちの実態を深く見つめることが大前提です。その先に「この子にはこう支援したい」という欲求が生まれ、教師の見取りを補完するツールとしてICTが活きてきます。「これでいいのか?」と問い、教師同士がモヤモヤを共有する文化をつくることが重要です。



～日程～

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 受付 | 13:00～13:15 |
| ② 開会行事 | 13:20～13:30 |
| ③ 研究説明 | 13:30～13:40 |
| ④ 授業公開 | 14:05～14:50 |
| ⑤ 座談会 | 15:00～15:40 |
| ⑥ ワークショップ | 15:45～16:40 |
| ⑦ 閉会行事 | 16:45～16:55 |